

皮膚科学の進歩に寄与する研究報告書

そもそも洗顔料を使った洗顔で肌トラブルを解消する考え方が間違っている: 洗顔の使用目的は肌を清潔に保つこと

1. はじめに

本研究では、洗顔の目的とその影響について詳細に調査し、洗顔料を使った洗顔が肌トラブルを解消する手段ではないことを明らかにします。

2. 洗顔の目的

洗顔の主な目的は、余分な皮脂や汗、花粉やほこりといった水性の汚れを落とし、また、洗顔料を使った洗顔は、メイクの油性汚れやスキンケア製品の油性成分を落とし、肌を清潔に保つことが目的です。

3. 洗顔と肌トラブルの関係

油性・水性の汚れをそのままにしておくと、肌荒れや毛穴詰まりなどに繋がってしまうため、洗顔は健康的な肌を保つため、あるいは肌トラブルを未然防ぐために重要なものです。しかし、洗顔が肌トラブルを解消するという考え方は、スキンケア科学の観点から見ても誤りです。

4. 洗顔後の肌の状態

洗顔後の肌の状態 洗顔料を使った後の肌は、皮膚バリアに必要な脂質が過剰に取り除かれるため、非常にデリケートな状態になり、肌トラブルが起りやすくなります。さらに、洗顔料が肌に残るか、肌に浸透すると、様々な肌トラブルを引き起こします。

5. 皮膚バリア修復スキンケアの重要性

したがって、洗顔後はすぐに皮膚バリア修復スキンケアを行うことが重要です。これにより、皮膚バリア機能を支え、水分蒸散の防止、異物の侵入防止、そして角質の水分保持力を強化します。

これらの対策は、肌トラブルを防ぐだけでなく、肌の悩みを解消し、より美しい素肌を目指すための基盤となります。さらに、見た目をより美しくするという美容目的の実現にも寄与します。しかし、この事実気づいていないヒトが多いのが現状です。